

美杉山荘 建設プロジェクト

大阪工業技術専門学校

製材 運搬

山荘建設地の川向に製材所があったおかげで、山で切り倒した原木を何度か製品に挽いてもらっています。今回依頼したのは、天井に張る4分(12mm)板。同じ板でも、丸太周辺部の白っぽい板(白太)と、中心部の赤っぽい(赤身)とがあり、強度や耐久性、材の安定性で赤身の方が優れています。今回出した丸太が比較的大きく、幅105mmの板を丸太の中心部分で製材してもらった結果、赤身の多い立派な板になって帰ってきました。



2008 今昔館展示模型



2007 西武庫園地リフォーム



2006 N氏の山荘建設



2004 琵琶湖別荘建設



2003 香住古民家移築



2002 大飯古民家移築



2000 朽木研修所離れ



左の写真が製材された4分板。右は残った辺材。体積は辺材の方がはるかに多く、製品の歩留まりは4割程度でしょうか。但し、辺材も45mm程度の厚みに挽いてもらって、敷居・鴨居などの造作材に利用します。それでも残った部分は蒔にしますので、捨てる部分はありません。



荷揚げされた板を、乾燥のため棧積みします。乾燥具合は重さで判断しますが、杉の場合は乾燥につれて極端に軽くなりますので、慣れれば体感的に分かります。



大工技能学科2年生は、学校の技能実習で2階建ての実物加工に入っています。それに使う丸太の梁材を、美杉で調達しています。今回は8本の丸太を学校に持ち帰りました。製材された角材に比べ、はるかに難易度高い丸太材ですが、7月初旬の上棟が楽しみです。

